

平成 21 年度

病害虫発生予報第 6 号

平成 21 年 10 月 22 日

三重県病害虫防除所

515-2316 三重県松阪市嬉野川北町 530

TEL 0598-42-6365 Fax 0598-42-7568

ホームページ<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo>

目 次

	ページ
1. 向こう 1 か月の予報と対策	1
2. 作物別の状況	2
3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠	5
4. 予察項目の見方	8
5. 今月のトピックス（コムギの縞萎縮病について）	9
6. 気象のデータ	10
7. おしらせ	12

1. 向こう 1 か月の予報と対策

1) 果樹

カンキツでは、ミカンハダニの発生量は少と予想されます。

2) 茶

チャでは、カンザワハダニはやや多と予想されますので、発生状況に注意してください。

3) 野菜

トマトでは、疫病の発生量は少と予想されます。

イチゴでは、うどんこ病の発生量は平年並、炭疽病の発生量はやや少と予想されます。ハダニ類の発生量はやや多と予想されますので密度の低い

ちに防除をしてください。

ハクサイでは、白斑病の発生量はやや少と予想されます。

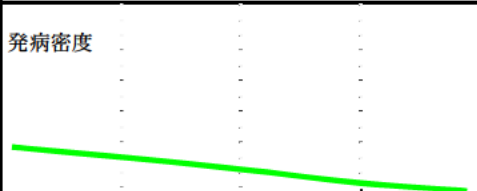
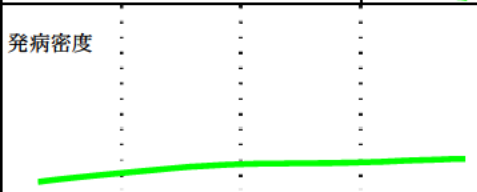
キャベツでは、黒腐病の発生量は平年並と予想されます。



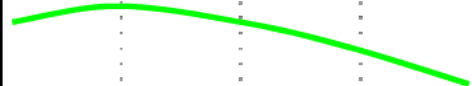
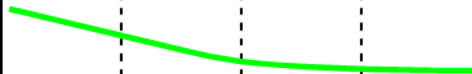
ネギでは、ネギコガの発生量は平年並、シロイチモジヨトウの発生量はやや少と予想されます。

アブラナ科野菜では、コナガの発生量は平年並と予想されます。

野菜一般では、ハスモンヨトウの発生量はやや少と予想されます。

2. 作物別の状況

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項	
			発生量	程度		10月	11月				
						下旬	上旬	中旬	下旬		
カンキツ	ミカンハダニ	—	少	小	低	成ダニ密度 					<ol style="list-style-type: none"> 1) 中晩柑類で袋かけをする品種では、作業にかかる前に必ず発生状況を確認し、必要に応じて防除を行ってください。 2) 1葉当たりのハダニ雌成虫数が、0.5~1.0頭にならなければ防除の必要はありません。
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	中	普通	成ダニ密度 					<ol style="list-style-type: none"> 1) 葉裏をよく注意して、密度が高いようであれば防除して下さい。
トマト	疫病	—	少	小	低	発病密度 					<ol style="list-style-type: none"> 1) 初発を認めた場合は、集中的に薬剤散布してください。 2) 20℃ぐらいの室温で多湿の時に発生が多くなります。病原菌は被害植物とともに土の中に残り、伝染源となるので、被害株・枯死株は圃場外で処分してください。
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	小	普通	発病密度 					<ol style="list-style-type: none"> 1) ビニール被覆後、発生が増加します。 2) 予防に重点をおいて防除してください。 3) 発病を認めたときは、葉裏に薬液がかかるよう、下葉を除去して丁寧に防除してください。
	炭疽病	—	やや少	小	普通	発病密度 					<ol style="list-style-type: none"> 1) 感染株が、本圃定植後に発病します。 2) 発病株は周りの土ごと圃場外へ持ち出し、適切に処分してください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生消長の一例				防除の注意事項
						10月	11月			
						下旬	上旬	中旬	下旬	
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	小	普通	成ダニ密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 天敵農薬を使用する場合は、密度の低いうちに導入するように手配してください。 2) 発生を確認したら、できるだけ早期に防除するようにしてください。 3) 薬剤をかかりやすくするため古葉を除去し、葉裏までしっかりと散布してください。 4) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
ハクサイ	白斑病	—	やや少	中	普通	発病密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 肥料切れしないように注意してください。 2) 秋から初冬にかけての雨の多い時期に多発する傾向があります。 3) 発病初期の薬剤防除を徹底してください。特に台風 18 号の被害を受けたところでは、感染が拡大しないよう注意してください。
キャベツ	黒腐病	—	平年並	小	普通	発病密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 台風 18 号の冠水被害を受けたところでは、感染が拡大しないよう注意してください。 2) 大雨時に感染することが多いので、大雨後や特に冠水したときはすみやかに薬剤防除してください。 3) 発病株を放置すると翌年の伝染源となるので、圃場外に除去してください。
ネギ	ネギコガ	—	平年並	小	普通	幼虫密度 				<ul style="list-style-type: none"> 1) 幼虫が葉の内部に潜るので、潜入防止のため発生の初期から防除してください。

作物名	病虫害名	発生時期	発生量		要防除圃場率	発生活消長の一例				防除の注意事項	
						10月		11月			
						平年比	平年比	程度	平年比		下旬
ネギ	シロイチモジヨトウ	—	やや少	小	普通	幼虫密度					1) 老齢になるに従って薬剤の効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除してください。
	コナガ	—	平年並	中	普通	幼虫密度					1) 抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。 2) 冬でもゆるやかながら生育を続けて加害します。
	ハスモンヨトウ	—	やや少	中	普通	幼虫密度					1) 老齢幼虫に対しては防除効果が劣るので、若齢幼虫のうちに防除を行ってください。

3. 発生時期・発生量（平年比）の予察根拠

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
カンキツ	ミカンハダニ	—	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報（10月16日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 県予察圃（10月中旬）では、100葉当寄生虫数は無防除区で0頭（平年21.5頭）、防除区で2.2頭（平年35.1頭）と少の傾向（-） 3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、平均寄生葉率は2.9%（平年5.0%）、1葉当平均寄生虫数は0.03頭（平年0.09頭）と少（-） 4) 一般圃場では、発生量は少（-） <p>考察： 大きな増加の要因はないので、予想発生量は少と考えます。</p>
チャ	カンザワハダニ	—	やや多	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報（10月16日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 県予察圃（9月下旬～10月上旬）では、寄生葉率は49.0%（平年1.0%）、1葉当寄生頭数は、3.6頭/葉（平年0.03頭/葉）と多（+） 3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、寄生葉率は4.1%（平年0.6%）、1葉当寄生頭数は、2.3頭/葉（平年0.01頭/葉）と多（+） 4) 一般圃場では、発生量は少～多（概して平年並）（+） <p>考察： 現状はやや多と思われ、そのまま予想発生量はやや多と考えます。</p>
トマト	疫病	—	少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（平年0%）と平年並の傾向（±） 2) 一般圃場では、発生量は無～やや少（概して少）（-） <p>考察： 大きな増加の要因はないので、予想発生量は少と考えます</p>
イチゴ	うどんこ病	—	平年並	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報（10月16日）によると、気温は低くない予想（+） 2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は1.0%（5年平均0.2%）とやや多の傾向（+） 3) 一般圃場では、発生量は平年並～少（概してやや少）（-） <p>考察： 一般圃場での発生量はやや少ですが、巡回結果や気象予想等を考慮して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	炭疽病	—	やや少	<p>要因</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 か月予報（10月16日発表）によると、気温は低くない予想（+） 2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率0%（平年0.3%）と平年並の傾向（±） 3) 一般圃場では、発生量は平年並～少（概してやや少）（-） <p>考察： 気温の低下とともにハウス内での感染はしにくく大きな増加要因はないので、予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
イチゴ	ハダニ類	—	やや多	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 巡回調査圃場（10月第2週）では、寄生株率は7.7%（5年平均6.0%）とやや多の傾向（+）</p> <p>3) 一般圃場では、発生量は平年並（±）</p> <p>考察：一般圃場での発生量は平年並ですが、巡回調査結果や気象の要因を考慮して、予想発生量はやや多と考えます。</p>
ハクサイ	白斑病	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 台風18号（10月7-8日）通過（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0.3%（平年10.2%）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少（-）</p> <p>考察：発生量は少でしたが、台風18号の影響も考えられ、予想発生量はやや少と考えます。</p>
キャベツ	黒腐病	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 台風18号（10月7-8日）通過（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、発病株率は0%（平年2.1%）と少の傾向（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並（±）</p> <p>考察：一般圃場の傾向を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
ネギ	ネギコガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（9月4半旬～10月3半旬）では、誘殺数は70頭（平年11.8頭）と多（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、被害葉率は0.1%（平年0.6%）と平年並の傾向（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は概して平年並（±）</p> <p>考察：現状の発生量は平年並と思われ、そのまま予想発生量は平年並と考えます。</p>
	シロイチモジヨトウ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低い予想（+）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（9月4半旬～10月3半旬）では、誘殺数は52頭（平年88.5頭）と少（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、被害葉率は2.3%（平年8.2%）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量はやや少（-）</p> <p>考察：現状の発生量はやや少と思われ、そのまま予想発生量はやや少と考えます。</p>

作物名	病虫害名	発生時期 平年比	発生量 平年比	予察根拠
野菜共通	コナガ	—	平年並	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低くない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（9月4半旬～10月3半旬）では、誘殺数は28頭（平年10.6頭）と多（+）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、キャベツの寄生株率は0.8%（平年2.1%）と少、ハクサイの寄生株率は0%（平年0.4%）と平年並の傾向（±）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は平年並（±）</p> <p>考察：一般圃場での発生量を重視して、予想発生量は平年並と考えます。</p>
	ハスモンヨトウ	—	やや少	<p>要因</p> <p>1) 1か月予報（10月16日発表）によると、気温は低くない予想（+）</p> <p>2) 県予察圃フェロモントラップ（9月4半旬～10月3半旬）では、誘殺数は1,106頭（平年1,990頭）と少（-）</p> <p>3) 巡回調査圃場（10月第2週）では、キャベツの寄生株率は2.2%（平年4.1%）、ハクサイの寄生株率は0%（平年0.5%）、イチゴの寄生株率は0.83%（平年4.9%）と少（-）</p> <p>4) 一般圃場では、発生量は少～やや多（概して平年並）（±）</p> <p>考察：一般圃場の発生量は平年並ですが、フェロモントラップの成虫発生量を考慮して、予想発生量はやや少と考えます。</p>

4. 予察項目の見方

1) 「作物別の状況」の見方

発生時期（平年比）： 平年の発生月日からの差を「早、やや早、平年並、やや遅、遅」の5段階評価で予測します。ただし、発生時期が毎年大きく変化する病害虫では、日数の基準が下記より大きくなります。発生時期を予察する意義の小さい病害虫では予察しません。

日数		-6	-5	-4	-3	-2	-1	平年 発生日	1	2	3	4	5	6	
評価		早	やや早		平年並				やや遅			遅			

発生量（平年比）： 発生密度の平年値からの差を「少、やや少、平年並、やや多、多」の5段階評価で予測します。平年値との比較なので、平年値が小さければ、「多」になっても見かけの密度は多くないことがあります。毎年多発生している場合は「平年並」や「やや少」でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

		平年値 ↓				
度数	10%	20%	20%	20%	20%	10%
評価	少	やや少	平年並		やや多	多

発生量（程度）： 発生程度を「小、中、大、甚」の4段階評価で予測します。評価の基準値は病害虫毎に異なりますが、大雑把には、「見た目の多さ・少なさ」です。甚になるほど見た目は多くなり、小になるほど見た目は少なくなります。「発生量（平年比）」と比べることによって、「平年並に発生程度が小さい」「発生程度は大きい平年並の発生量である」「平年より多いが、発生程度は小さい」「平年よ

りやや少ないが、依然として発生程度は中くらいである」等のように判断してください。

小	中	大	甚
---	---	---	---

要防除圃場率（平年比）： 防除の必要性の目安を「低、普通、高」の3段階評価で予測します。「普通」であれば、県下の大半の圃場では防除暦に沿った通常の防除をしていればいいと予想されます。「高」であれば、防除時期の見直しや追加防除などが必要な圃場の割合が相当増加すると予想されます。「低」であれば、防除回数を減らせるか防除しなくても済むような圃場の割合が相当増加すると予想されます。

低	普通	高
---	----	---

発生消長の一例： 発生予報は向こう1か月の予報ですが、その前後を合わせて40日ほどの病害虫の発生消長の一例をグラフで示します。大まかな目安として利用してください。

防除の注意事項： 向こう1か月の病害虫の特性と防除に関する説明です。

2) 「発生時期・発生量（平年日）の予察根拠」の見方

(±)：平年並の要因

(+)：発生量増加または発生時期遅延の要因

(-)：発生量減少または発生時期早期化の要因

5. 今月のトピックス 「コムギの縞萎縮病について」

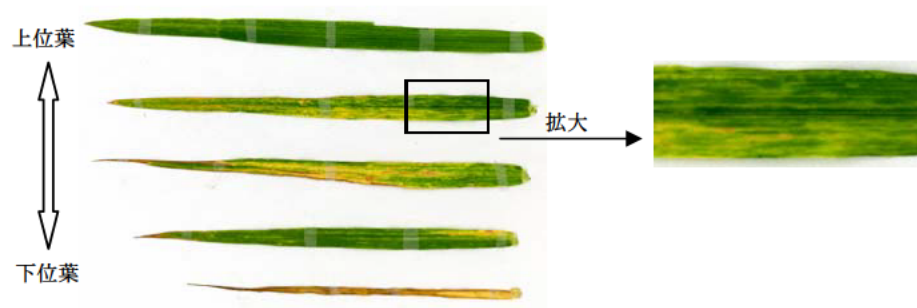
コムギ縞萎縮病は土壌伝染性のウイルス病です。本病で汚染された土壤が、農機具に付着して移動することによって発生地が拡大し、本県ではコムギの作付面積の30～40%で発生するようになりました。

1) 発病と被害

コムギ縞萎縮病は播種後に土壌感染します。2月下旬から新葉が黄白色になってしま模様になり、その後、葉身や葉鞘の生長が抑えられて萎縮します。4月上旬頃になると新たな発病は止まります。しかし、それまでの生長がひどく抑制されていると、分けつ数および穂数の減少を招き、著しい場合は20～40%の減収となることもあります。

2) 見分け方

一番の特徴として、展開葉を中心に、黄色のしま模様が縦方向に現れます。黄色のまだら模様、黄色でない薄緑色のしま模様のような症状は、湿害や肥切れなど他の原因が考えられます。4月以降になってからは、上位の葉しか症状が見られない場合も本病ではないでしょう。



3) 伝染方法と発病条件

コムギ縞萎縮ウイルスは、土壌中のカビによって媒介され、播種後に感染します。感染や発病にはコムギの生育期間中の温度が深く関わっています。播種頃の気温の低下が遅れ、春先に気温が低くなる年は、感染や発病に好適となつて、被害が大きくなります。年々、暖冬傾向になり、今年も11月から12月にかけての気温は低くないとの予想ですので注意が必要です。

品種による発病の程度は下表のようになり異なります。

品種	縞萎縮病抵抗性
あやひかり	強
ニシノカオリ	やや強
タマイズミ	中
農林61号	中

4) 防除対策

効果的な防除薬剤はありません。抵抗性品種が導入できない場合は耕種的な方法で被害を軽減しましょう。

①晩播；播種期を遅らせると、発病の程度が軽減されることが確認されています。低温下では土壌中での感染の機会が失われるためと考えられています。

②健全な生育；排水対策や追肥等をしっかり行い、コムギを健全に育ててください。健全でないと病気による被害が助長されます。

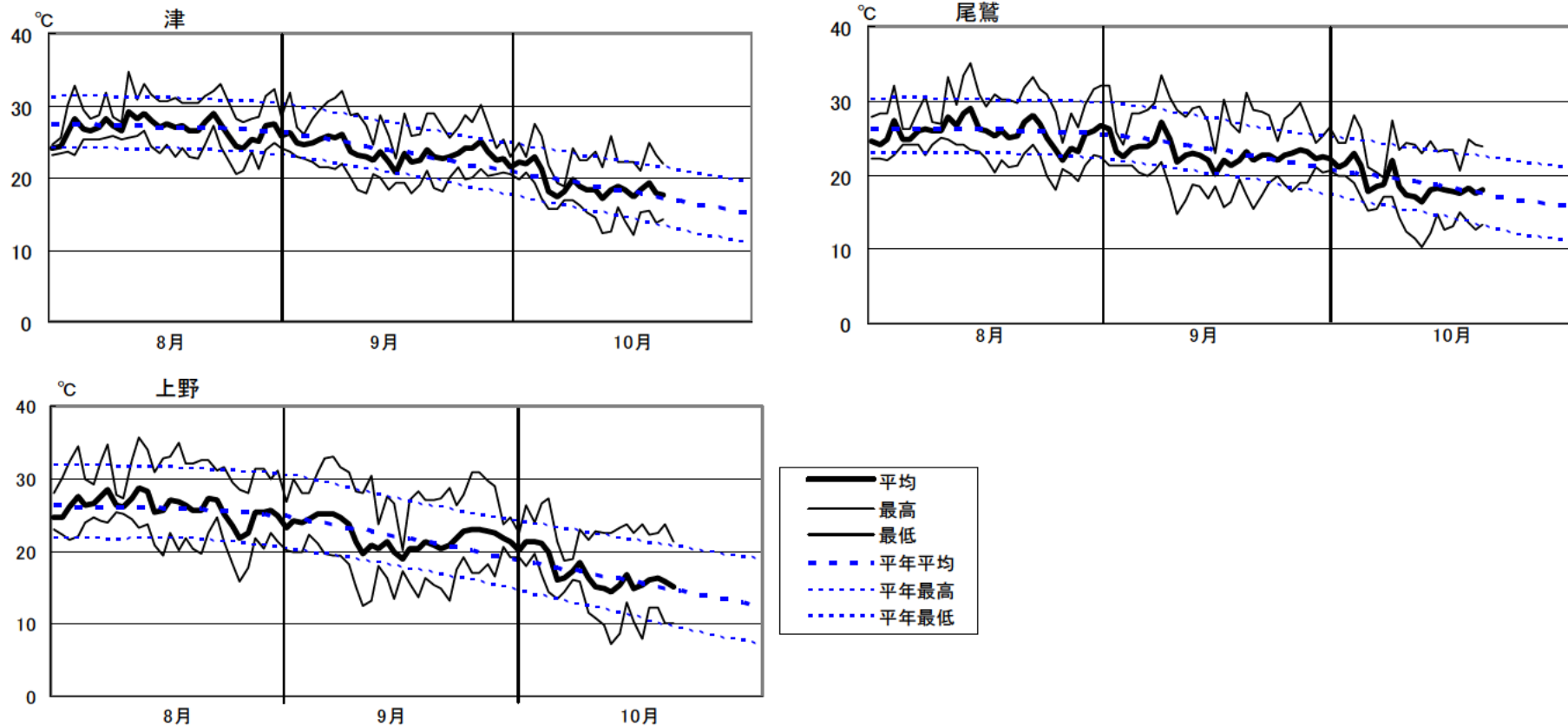
6. 気象のデータ

東海地方1か月予報 (平成21年10月16日 名古屋地方気象台発表)

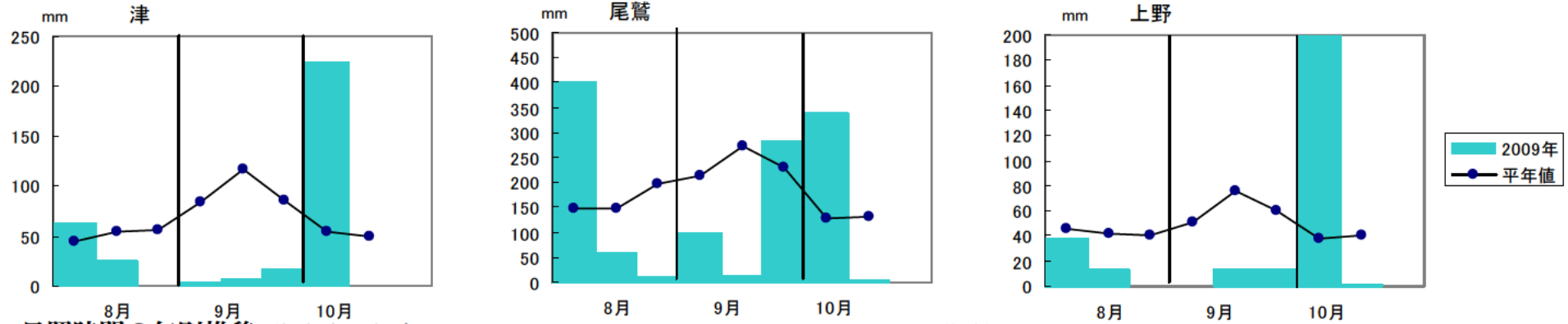
東海地方の向こう1か月は、高気圧と低気圧が交互に通過し、平年と同様に天気は数日の周期で変わると見られます。

1週目 (10月17日～23日)	高気圧に覆われて晴れる日が多いですが、期間のはじめと中頃は気圧の谷の影響により雲が広がりやすく、雨の降る日もあるでしょう。	晴れ日数の平年値 約4日
2週目 (10月24日～30日)	平年と同様に、天気は数日の周期で変わると見られます。	同 約4日
3～4週目 (10月31日～11月13日)	平年と同様に、天気は数日の周期で変わると見られます。	同 約8日

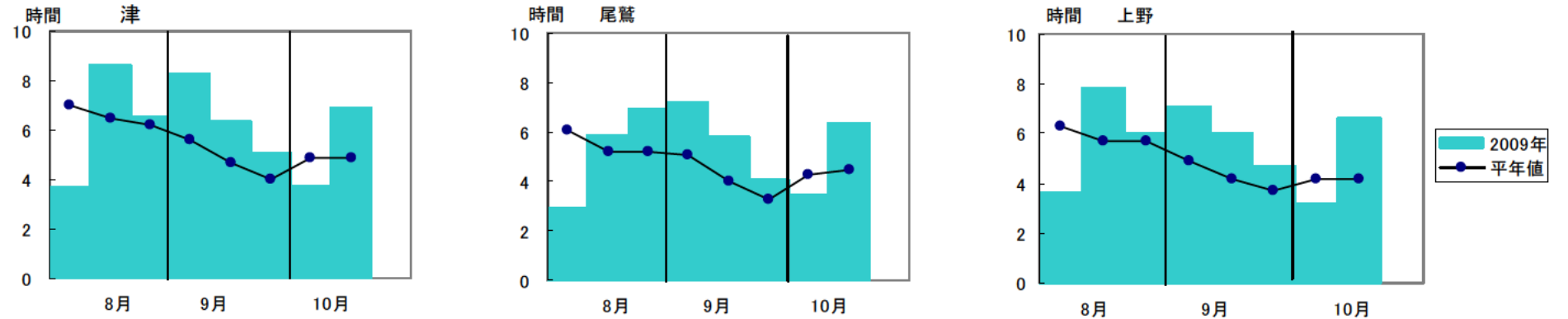
気温の日別推移 (気象庁発表データ <http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php> から作成)



降水量の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



日照時間の旬別推移 (気象庁発表データ<http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>から作成)



7. おしらせ（前回と異なる項目には **NEW** の印があります）

1) 発表日 **NEW**

本年度の病害虫発生予報は次の予定で発表します。

第1回 4月23日（発表済み）	第2回 5月28日（発表済み）
第3回 6月25日（発表済み）	第4回 7月23日（発表済み）
第5回 8月27日（発表済み）	第6回 10月22日（今回）
第7回 3月18日（木）	

2) 利用方法

全部または一部をコピーして回覧・配布にご利用ください。ただし必ずページの右下にある「三重県病害虫防除所」の文字が入るようにしてください。

病害虫防除所ホームページには、この予報をはじめとして、不定期に発表される警報、注意報、特殊報、技術情報や、各種のグラフ、写真も載っています。下記のアドレスからお入りください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/>

このホームページはフリーリンクです。リンクする場合、事前の承諾申請等は不要ですが、事後で結構ですのでメールにてご一報いただくと幸いです。

3) 本冊子の利用の手引き書

本冊子の見方を説明した「病害虫発生予報利用の手引き」があります。下記のアドレスからお入りください。

http://www.mate.pref.mie.jp/Bojyosyo/files/h21yohotebiki_.pdf

4) メール配信サービス

予報、警報、注意報、特殊報、技術情報が発表されたときに、ホームページに掲載されたという「掲載通知」を電子メールでお知らせしています。このメールの配信を希望される方は、下記のアドレスからお申し込みください。

<http://www.mate.pref.mie.jp/bojyosyo/merumaga.htm>

5) 農薬登録状況の最新情報

農薬の販売や使用に当たっては、農薬登録上の制限があります。農薬の使用時はラベルをよく読んでください。次のインターネットサイトでは、最新の農薬登録状況が確認できます。

独立行政法人農林水産消費安全技術センターの「農薬登録情報」

<http://www.acis.famic.go.jp/searchF/vtllm000.html>